平成 16 年 12 月
大洋薬品工業株式会社
研究開発部

簡易懸濁法における
崩壊懸濁試験及び通過性試験

1.試験目的

ビフラミン末について，簡易懸濁法での適用が可能かどうかを検討する為，崩壊懸濁試験及び通過性試験を実施したので報告する.

2.試験材料

ビフラミン末　　Lot.325501　　大洋薬品工業株式会社

3.測定方法

崩壊懸濁試験：55℃の温湯20mLを入れたカップに成人最大1回投与量（3g）の細粒を入れて10分間自然放置した後，スパーテルで右20回，左20回，右10回と円を描くように攪拌し，懸濁状況を確認した.

通過性試験：崩壊懸濁法で得られた懸濁液をディスペンサーに吸い取り，経管栄養チューブの注入端より2～3mL/秒の速度で注入し，チューブのサイズ8フレンチ（以下Fr. とする）による通過性を観察した.

4.試験結果

崩壊懸濁試験の結果を表1に，通過性試験の結果を表2に示す. ビフラミン末は，10分間の自然放置で温湯に懸濁した. また，その懸濁液は8Fr.のチューブを通過した.

表1　崩壊懸濁試験結果

品目名	懸濁状況
ビフラミン末	10分以内に懸濁した.

表2　通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
ビフラミン末	8Fr.のチューブを通過した.

5.結論

ビフラミン末は，温湯に対して懸濁し，最小サイズのチューブを通過したため，簡易懸濁法を適用可能と考えられる.